

第4学年 道徳学習指導案

平成26年10月8日（水）第5校時

1 主題名 よりよい学級に 4－（4）

資料名 ハッピースマイル（出典 彩の国の道徳 道徳教育指導資料集 「みんななかよし」）

2 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

本主題は、中学年の内容項目4－（4）「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。」をねらいとしている。これは、学校や学級の集団とのかかわりに関するものであり、学級が自分たちのものであるという自覚をもち、この時期の特徴である明るさや活力を全面に押し出した楽しい学級をみんなで協力し合っつていくことができる児童を育てようとするものである。

この指導内容は、低学年においては、「先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。」とあり、教師が児童一人一人と愛情のある触れ合いをすることなどによって、教師を敬愛する心を育み、様々な学習活動を通して上級生に親しみをもったり、学校で働く人々の様子を知ったりすることで敬愛の心を育てることが必要とされている。さらに、高学年では、内容項目4－（6）「先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。」へと発展し、学校の一員としての自分の役割を自覚し、よりすばらしい校風をつくるために積極的に取り組む態度を養い、実践できるように指導することが求められている。

愛校心は、児童自身にとって学校の中でどれだけ自分が役に立っているかという思いから生まれる。また、学校を大切に思う気持ちは、一人一人の心の中の友達や先生とのかかわりを通して育まれていく。学校を大切に思うことは、今、自分がこの学校の一員であるという強い所属感をもつと同時に、みんなで協力して積極的に学校をよりよくしたいという思いをもつことである。それが、よい校風をつくるための土台となる。

学校生活が明るく楽しいものであることは、児童にとってかけがえのないことである。学級での様々な学習や体験を通して自分の学級に愛着をもつことは、よりよい生活の基盤を築くことにつながり、学校生活をより楽しく豊かなものにする。児童が積極的によりよい学級づくりを実現しようとする態度を育てていきたいと考える。

（2）児童の実態について

本学級の児童は、明るく元気である。一学期の「学級開き」では、よい学級を目指し、学級の目標を話し合っつて決めた。「思いやり、ガッツ、笑顔満開」は、クラスの目標の言葉として、児童集会で発表し、生活の様々な活動を通して助け合うことの大切さを感じ取らせてきた。また、「学級の歌をつくろう」という児童の声から、学級の目指す姿や願いを歌詞に込めて、自分達の学級をつくろうという意識も強くなってきた。

そこで、本資料を通して、児童自身が楽しい学校生活にするために、自分にできることは何かを考え、積極的に実践していくことの大切さに気付かせたい。

(3) 資料について

本資料は、主人公「はるか」の学級では、「わたしもいい。みんなもいい。」という言葉が学級の合言葉として、ある日、配膳台係の児童が欠席し、昼休みに配膳台が片付けられずに残ってしまう。食器を配膳室にもどしたはるかは、そのことに気付きながらも、遊びに行ってしまう。5時間目、青木先生の言動によって自分の行動を反省し、みんなで配膳台を片付ける。はるかは、学級の合言葉の意味を実感するという話である。

ここでは、資料の中の「はるか」の気持ちの変容を捉えながら、よりよい学級にするために学級の一員としてどうすることが大切なのかを考えさせ、学級はみんなで協力し助け合うことによって、楽しく生活できることのすばらしさに気付かせ、ねらいに迫りたい。

そこで、次の点に配慮しながら、指導していきたい。

- ① 片付けられていない配膳台に気付いた場面では、気にしながらも遊びに行ってしまった「はるか」の気持ちをおさえ、共感させたい。
- ② 「それでいいのかな。」という青木先生の言葉にうつむいてしまう場面では、「はるか」のどうしていいか分からない不安な気持ちに気付かせ、悩むはるかの心の内を考えさせたい。
- ③ 「私がかたづけます。」と言って、配膳台に向かった場面では、先生の積極的な行為にふれて、自分本位に考えていた「はるか」が、自分たちの学級は自分たちの力を合わせ、助け合うことの大切さに気付いた心の変化をつかませたい。そして、「はるか」の行動によって当番全員が片付けに集まり、協力し合う姿を見て、よりよい考えに目覚めた「はるか」の変容を捉えさせたい。
- ④ みんなと配膳台を片付け、笑顔が広がった場面では、学級のみんなが協力し、助けあって行うことで笑顔になり、よりよい学級にするためにできることを実行し、学級の合言葉の意味を実感したはるかの満足感を捉えさせ、本時のねらいに迫りたい。

3 研究主題との関わり

「豊かな心を持ち、よりよく生きる児童の育成」

— 心を耕す道徳の授業実践を目指して —

○中学年のテーマ

自他とのかかわりが考えられる道徳の時間

(1) 本時の具体的な手立て

ここでは、学級担任（T1）が全体指導をし、資料提示・話し合い活動・書く活動などをT1とT2で受け持つティーム・ティーチングで進め、児童の意見や考えの整理、話し合いの効率化を図り、より多くの児童を生かしていきたい。

- 導入** ・学級のめあてである合言葉を考えた時の心構えを振り返らせ、ねらいとする価値の方向付けをする。
- 展開** ・資料提示の工夫として、場面絵、切り抜き絵、重要語句を強調するカードを効果的に提示することにより、主人公の気持ちや考えを捉えやすいようにする。
- ・個を生かす指導の工夫として、②の場面において、「はるか」の心の内をネームプレートで類型化し、T1を「かたづけなくてもよい」という考えの児童（小集団B）、T2を「かたづける」という考えの児童（小集団A）に分かれて話し合わせる。それぞれの価値観を十分に考えさせ、自他の差異に気付かせながら、「はるか」の迷う心の弱さを捉えさせたい。
- ③の場面では、ねらいに深く迫るために、「はるか」が「私がかたづけます。」と言った根拠を明らかにし、心の変化をつかませ、よりよい考えに目覚めた姿を見つめさせたい。そして、書く活動を取り入れ、学級のみんなで協力し、助け合って行動するよさから、学級の合言葉の意味を実感した「はるか」の満足感を捉えさせ、自分の学級への愛着とよりよい環境をつくろうとする意欲を高めたい。
- ・「わたしたちの道徳」の「みんなでつくる楽しい学級」を活用し、自分にできることはどんなことがあるかについて考えたことを発表させたい。
- 終末** ・GTから、よりよい学級づくりを実現した体験談を聞き、クラスの一員としてやるべきことの大切さを印象付け、実践への意欲をもたせたい。

全体を通して、児童の自由な発言を大切に、それらを教師の言葉でつないでいながら、授業を構成していきたい。

(2) 総合単元的な道徳学習

「愛校心」の価値の道徳学習の計画として、道徳授業（本時）を中心に据え、事前指導と事後指導の中で、関連する道徳資料・豊かな体験活動・各教科を展開していくことによって、総合単元的に道徳の時間を充実させ道徳的実践力の育成を図る。

4 他の教育活動等との関連（総合単元的な指導の全体構想） 別紙

5 ねらい

○先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくろうとする態度を育てる。

6 学習指導過程

☆ 中心発問

段階	主な学習活動	形態	予想される児童の反応	・教師の働きかけ ◎評価	時間
道 入	1. 学級のめあてを考えた時の気持ちについて発表する。	一斉	・いいめあてをつくりたいな。 ・クラスみんなをまとめたいな。	・もっとよいクラスにするために取り組んだことを想起させ、ねらいとする価値の方向付けを図りたい。	3分
展 開	2. 資料の要点を知る。	一斉		・切り抜き絵やカードを活用しながら、登場人物を知らせ、条件・状況をおさえる。 ・主人公—はるか 相手方—青木先生、 給食当番のみんな	32分
	3. 資料「ハッピースマイル」の判読を聞く。			・聞く観点を指示し、主人公の立場で考えられるようにする。	
	4. 心に残ったところや話し合いたいところを発表する。	一斉	・片付けられてない配膳台に気付いたところ。 ・青木先生が「だれでもいいから当番の人はおねがいね。」と言ったところ。 ・はるかが「私がかたづけます。」と言ったところ。 ・学級の合言葉がくっきり見えたところ。	・聞く観点を指示し、主人公の立場で考えられるようにする。 ・T1とT2が役割読みを行い、臨場感をもたせる。 ・T1は、おもに話し合いを進め、T2は、児童の発表を板書にまとめる。 ・児童の受け止め方をつかんで話し合いの柱を整理する。 ◎本時の話題を自分達の課題として受け止めることができたか。 (発言・感想)	
深 め る	5. 「はるか」の気持ちを中心に話し合う。 (1) 片付けられていない配膳台を気にしながらも遊びにいったしまった時のはるかの気持ちを考	一斉	・早く外で遊びたい。 ・昼休みの時間が減ってしまう。 ・片付けているとみんなから遅れてしまう。 ・配膳台を用意した人が片付	・はるかは、自分の当番の仕事をきちんとやり終えて、急いでもどってきたことをおさえたい。 ・クラス全員で遊ぶ日だったので、配膳台が残っていたことに気付きながらも、遊びに行ってしまう	

	<p>える。</p> <p>はるかには、どんな気持ちからドッジボールをする人は、校庭に集合という声に誘われて遊びに行ったのでしょうか。</p>  <p>☆ (2) 青木先生の言葉にどうしているのか分からず、うつむいてしまうはるかの気持ちを考える。</p> <p>「それでいいのかな。」と言われた時、はるかはどんなことを考えたのでしょうか。</p>  <p>(3) 「わたしがかたづけます。」と配膳台に向かって走った時はるかの気持ちを考える。</p> <p>迷っていたはるかは、どんな気持ちから「私が、片付けます。」と言ったのでしょうか。</p> 	<p>けもやるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の仕事でない。 ・面倒だな。 <p>個別 グループ</p> <p>小集団A (片付ける)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・係の人が休みだから、代わりにやればよかった。 ・同じ当番だから、やればよかった。 ・気付いたのだから、遊びに行く前に片付ければよかった。 <p>小集団B (片付けなくてもよい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、自分の仕事をきちんとやったから。 ・配膳台を用意した人が、片付けもやるべきだ。 ・気付いた人が、先にやればいい。 <p>一斉</p> <p>(迷い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしよう。 ・わからない。 <p>一斉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の学級のことだから、私がやります。 ・隣のクラスの先生が片付けることでないから。 ・青木先生に任せないで、自分にできることはやろう。 ・当番が協力してやるのが大事だ。 	<p>はるかの思いに共感させたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はるか以外の給食当番の気持ちにもふれるようにする。 <p>◎ みんなと遊びたい気持ちから、外に行ってしまったはるかの思いをとらえることができたか。</p> <p>(発言・観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の多様な価値観を類型化し、黒板に掲示した心のテープ図の下にネームプレートを位置付け、小集団で自分の思いを語り合ったり、友達の考えを聞いたりして自分の考えを深めさせる場を設けたい。 ・T1、T2で分かれてグループに入り「どうしてそう考えた」のかを話し合わせることで「はるか」の心の内をとらえさせたい。 ・小集団ごとの発表を通し、2つの考えを併せもつ「はるか」の心情を(1)の場面と比較しながら、迷いをとらえさせたい。 <p>◎ はるかの戸惑いや不安を感じ取ることができたか。</p> <p>(語り合い・観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分本位に考えていたはるかが、青木先生の行為を通して、自分の行いを振り返り、進んで行動しようと思った心の変化をつかませたい。 ・はるかの行動によって、他の当番の人も片付けに集まった様子をおさえたい。 <p>◎ 青木先生の行為に気付き、反省するはるかの心の内を感じ取ることができたか。</p> <p>(発言・観察)</p>
--	--	---	---

		<p>(4) みんなで配膳台を片付け、笑顔の輪が広がった時のはるかの気持ちを考える。</p> <p>みんなで配膳台を片付け、笑顔の輪が広がった時、はるかはどんなことを思ったでしょう。</p> 	個別	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に片付けることができてよかった。 みんなとやると気持ちいいし、楽しいな。 ハッピースマイルが広がってよかった。 早く片付ければよかったなあ。 協力し、助け合うことが大切だな。 	<ul style="list-style-type: none"> T2から、青木先生の気持ちを挿入した問いかけをする。 書く活動を通して笑顔が広がった時のはるかの思いを表現させたい。 みんなで協力し、助け合って活動することで、学級みんなが笑顔になれることの心地よさを味わったはるかのすがすがしい気持ちを感じとらせたい。 <p>◎学級は、協力し、助け合っていくことによって、よりよい場になることを捉え、ワークシートに書くことができたか。</p> <p>(ワークシート・発言)</p>	
	見つめる	6. 生活をみつめる。わたしたちの道徳の「みんなでつくる楽しい学級」を活用し、自分にできることを考える。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 友達が仕事を忘れていた時は、教えて一緒にやるよ。 勉強が分からなくて困っていたら、やり方を一緒に考えてあげたいな。 掃除を協力してやりたいな。 学級会を活発にしたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級のために自分は何ができるのかについて考え、発表させたい。 一人一人の思いを認め、励ますことによって、よりよい学級にしようとする意欲を高めたい。 <p>◎自分の生活を振り返り、発表することができたか。</p> <p>(発言・観察)</p>	5分
終末	心にとめる	7. GTの体験談を聞く。	一斉		<ul style="list-style-type: none"> ねらいとする価値への印象付けを図り、実践への意欲を持たせたい。 	5分

7 評価

(1) はるかの気持ちになって話し合ったり、ワークシートに自分の思いを書いたりすることができたか。

(発言・ワークシート・観察)

(2) みんなで協力し合って楽しい学級をつくることよさに気づき、実行しようとする気持ちをもてたか。

(発言・語り合い・観察)

8 板書計画 (別紙)

9 事前・事後指導

(1) 事前指導 ・学級における係活動・当番活動への取組の中で、学級のために協力して活動できるようにする

(2) 事後指導 ・帰りの会での「今日のヒーロー」コーナーで、教師が意欲的に児童の学級のためになる行為や助け合う心を取り上げたり、児童同士が友達のよさを発表したりすることを通して、よりよい学級・学校にしようとする実践意欲を高める。

10 資料吟味表 (別紙)

